

# 野村佳代作「無償の愛—母となって知ったこと」

ママ(山崎あき)	中橋文	助産師	大橋めぐみ
パパ	中橋祐貴	医師	東裕之
あきの母	野村佳代	救急隊員	中尾隼人
あきの父	畠山裕樹	牧師	小川政弘
ママの親友(ゆり)	大橋めぐみ		

## ○産婦人科医院

救急隊員                   これから赤ちゃんを新生児 ICU のある医療センターに搬送致します。私たちは、どんどん先を走ります。ご家族の車を先導するわけではありませんので、交通ルールを守って、急がず医療センターに来てください。医療センターでは、赤ちゃんをお迎えする準備をちゃんとして、お待ちしておりますから、安心してください。

ママ                       どうぞよろしくお願ひ致します。

効果音                   (ストレッチャーの音 救急車のサイレン)

ママ(ナレーション)   私は、山崎あき。27歳、結婚2年目で、初めての子どもを出産した。商社マンの夫は、1か月ほど海外出張していて、とても立ち会ってもらえそうにはなかった。その日の早朝、前夜からの腰の痛みが我慢できなくなり救急車を呼んだ。初めての出産ということもあって、3日前から母が泊まり込んでくれた。おかげで、陣痛が始まっても慌てることなく落ち着いていられたのは、考えてみれば、ありがたいことだった。いい年をしてちょっぴり恥ずかしいが、母はいつも本当に頼りになる。

助産師                   お家でよく頑張りましたね。すぐ分娩室に入りますね。

ママ                       はい。

助産師                   立ち会われるお母様はこちらの白衣に着替えてご一緒にどうぞ。

母                         はい。

ナレーション           それから1時間ほどして、男の子、こうたが生まれた。新しい命の誕生だ。私は、母になったのだ！ 初めての出産にもかかわらず、あっけないほど順調で、何も不安を感じることなく、むしろ、びっくりするほど頑張れた。これも、考えてみれば、自分だけの力では、こうは行かなかったろう。正直に、“母に感謝”だ。

助産師 おめでとうございます。男のお子さんです。1900グラムで、ちょっと小さいですが、反応もちゃんとあります。呼吸もできています。「この状態なら、このままこの病院でお世話しても大丈夫」と言いたいのですが、2500グラムに満たない赤ちゃんは、2500グラムになるまで、新生児ICUに入らなければいけないと決められていますので、搬送の準備をさせていただきます。

ママ ええ〜。そうなんですか。一緒にいられないのですね。はい。分かりました。では、よろしくをお願いします。

母 ちょっと小さかったけど、大丈夫。体はちゃんとしているよ。あなたはもちろんのこと、この赤ちゃんだって、お腹の中でも、出てくるときも、そして、あなたから離れて、別の新しい命になった今も、私たちが思っているより遥かにすごい力で頑張ってるよ。ハレルヤ！

ママ 出た、お母さんの「ハレルヤ！」！ なんだっけ？ “主を、褒めよ”？ 我が家の“ハレルヤおばさん”。でも、それ聞くとこっちまで元気出てくる。

ナレーション そう、母は、冗談をよく言う、至って明るい人で、若い頃から熱心なクリスチャンだ。日曜日は、どこにいても旅先でも教会の礼拝を欠かしたことがない。その母に「大丈夫」と言われると、その一言で、赤ちゃんがたったの1900グラムで、両手の平に収まるほど小さくても、なんの心配もなく、なんとも言えない幸せな気分になるから不思議だ。お産の後、私はさすがにどっと疲れが出て、眠ってしまった。夢の中で私は、独身の頃の母との会話を思い出していた。

○自宅のリビングで

ママ お母さんって、スゴいね！ マジで、スゴいです。

母 何よ、改まって。

ママ 今更ですが、本当に。

母 だから何よ。じろじろ人の顔見ちゃって。いやあねえ。何か顔についてる？

ママ うう〜ん。だってさ、朝からずっと動いてるよ。

母 昆虫観察みたいなこと言わないでよ。いつもこうでございます。そう言うなら、高みの見物なんかしてないで、何か手伝ってくれてもいいんじゃない？

ママ そうしなければいけないなあー、と思っはいるんだけどね〜。

母 やれやれ思うだけですか。ま、思ってくれるだけでよしとしますか。

ママ お母さんて、いつも自分の事は後回しにして、家族や周りの人たちのことばかりしてるよね。いつも心の中では、“申し訳ない”と思っはいます。

母 そうでございますか。うれしくて涙が出ます。

ママ これからもお世話になります。ああ幸せ！ 私もいつかお母さんみたいになれるかなあ？

母 なるわよ。たぶんね、私の血は引いてるから。(クスリと笑う)

ナレーション 父の仕事の関係で我が家は転勤族だったので、引っ越しも度々あった。きょうだいは私を入れて3人、女は私一人。まるで計画出産みたいに、それぞれ5つ違いだったので、上の兄と下の弟は10歳も離れており、兄が高校生の時、弟はまだ幼稚園生だった。そんなときは、母は毎朝、食べ盛りの兄にたっぷりおかずの入ったお弁当を持たせると、弟の幼稚園の送り迎えをした。そんな中で、私の中学の役員だってしていたのだ。母は、本当によく働いた。今もそうだ。それはもう、家族みんなが認めていて、私など、結婚しても、正直、頼りっぱなし。母の両親はもう亡くなっているが、その両親が、二人同時に入院した時だって、まだ小さかった私と弟を連れて、けっこう遠くにあったその病院までよく見舞いに行った。そんな時は私たち2人分の勉強道具や着替えなど、準備万端整えて紙袋に入れ、両手に下げていったものだ。よほどのことがない限り、私たちの習い事だって休ませず、不自由になったり、肩身の狭い思いをしたりすることは、一度もなかった。

母 さあて、しばらくはICU 通いとなると、まだあなたを一人にしては置けないわねえ。

ママ はい、実はそうなんです。もうしばらくお世話にならなきゃ。頼りにしてます。

母 はいはい、こちらは慣れておりますので。(笑)

ナレーション こうして、私が病院から退院してからも、2人で、車で片道1時間ほどかかるICUに、授乳と、冷凍した母乳を届ける毎日が続いた。ICUには、親だけしか入れないので、母は、初孫を見ることも抱くこともできなかったが、まだ産後で体が回復していない私のために、毎日車を運転して送り迎えをしてくれたのだ。家では、良い母乳が出るようにと、食事も気を付けてくれた。

母 あき、よく眠らないとダメよ。良いお乳を飲ませてあげるには、栄養と、十分な睡眠が一番だからね。

ナレーション この時ほど母をありがたく思ったことはない。世のお祖母ちゃんのように、ただ孫をかわいがっていてもいい身分なのに、私の体の回復にも気を配って、私の身の回りから赤ちゃんの世話まで、本当に良くやってくれて、それで父の待つ家に帰れば、いつもの家事もしっかりとやっていたんだから、これはもう「スゴい」と言う他はない。これでは倒れてしまわないかと心配になるほどだ。

ママ(モノローグ) 母のこの力はいったいどこから出てくるんだろう？ 毎週教会に行って、神様から力をもらってるからかなあ。

ナレーション そうこうするうちに、1か月が過ぎた。

#### ○医療センターで1か月後

医師 2500グラムになりましたね。比較的順調に体重が増えて良かったです。呼吸もしっかりしてます。検査も全てOKです。もう家に帰っても大丈夫ですよ。良かったですね。退院を許可します。おめでとうございます。

パパ ありがとうございます。  
 ママ ありがとうございます。  
 医師 「これからは、お二人で育児を頑張ってください。」と言いたのですが、初めてのお子さん  
 ですし、お母さんの応援があるようでしたら、あまり頑張りすぎないで、助けてもらった方  
 がいいですよ。  
  
 ナレーション 私は、やっと海外から帰ってきた夫とも相談し、医師の助言を入れ、こうたがもう少し大き  
 くなるまで、母のいる実家で育てることにした。数日後、大学時代からの一番の親友、ゆりか  
 ら電話があった。  
 効果音 (電話呼び出し音)  
 ゆり (フィルター音)あき？ あたし、ゆり。あき！改めて、退院おめでとう。落ち着いてきた？  
 ママ ゆり、いつも心配してくれてありがとう。  
 ゆり (フィルター音)でも、本番はこれからだよ。今は実家だからいいけど、夜中も、3時間ごとの  
 授乳、それにおむつ替え、そのほか全部自分でやらなきゃいけないんだからね。  
 ママ うん。そうだね。  
 ゆり (フィルター音)うちはもう、保育園に入ってるから、色々病気もらってきちゃって、しょっち  
 ゅうお熱が出て、仕事休んでばかりなの。だから、会社では肩身が狭いよ。こっちも風邪  
 こじらして肺炎で入院しちゃったし。  
 ママ へえー。大変だったね～。  
 ゆり (フィルター音)産後、実家に世話になっていた時は、母が、何があっても守ってくれて、赤  
 ちゃんの母親は私なんだけど、母には甘えちゃたから頭上がんないよ。  
 ママ あ、私もおんなじ。うちの母ね。普段の生活だって大変なのに、それでも、私のことも赤ち  
 ちゃんのことも全部やってくれるのよ。私は授乳だけで、もうくたくた。母は、もう、そんなに若  
 くないから心配になっちゃう。でも、どこからそんなに力が出るのかなあ？  
 ゆり (フィルター音)それが、“無償の愛”なんだよ。  
 ママ え？ “無償の…愛”？  
  
 ナレーション そういえば、学生の頃、母からよく教会に誘われた。何度かついて行った時に、確か“無償  
 の愛”ってメッセージを聞いたことがあるような気がする。

○ある日、母と一緒にいった教会で

効果音 (賛美歌)

牧師 ハレルヤ！ 皆さん、今日は、神様の愛についてお話ししたいと思います。神様の愛は、  
 “無償の愛”なんですよ、と、言っても、ピンとこないですよ。ちょっといろんな本で調べて  
 みると、こんな風にかかれてます。「無償の愛を与えることのできる人は、周りにいる人た  
 ちのために身を粉にして動くことができる。」「相手の気持ちを考えることができ、自分に利

益がなくても、相手のために尽くすことができる。」「“無償の愛”とは、見返りを求めない愛である。」というふうに書かれています。例えば、誰でも赤ちゃんを見ると微笑んでかわいいと思いますよね。お母さんは、赤ちゃんを抱っこして、あやして、何があっても赤ちゃんを守ります。お母さんが、赤ちゃんを守る愛って、スゴいです。こう言ったら分かりますかね。私たちに“無償の愛”を与えてくださったのは、イエス様です。そしてイエス様の愛とは、“お母さんがどんな犠牲を払ってでも赤ちゃんを守るように私たちに愛して下さいる愛”なのです。

ママ(モノローグ) このメッセージを聞いた時は、よく分からなかったというか、何も感じなかったのに、赤ちゃんを命がけで守る母の愛が、イエス様の愛だというあのお話は、あれから何年もたって母となった今、何かスゴい現実味を帯びて、私の心に迫ってきた。そして、母に連れられていった教会で何度も聞いた“イエス様”という存在が、初めて少し近くなった感じがした。

ママ お母さん！ ずっと前に学生の時に聞いた神様の愛の事、思い出したの！

母 へえー。うれしいわあ。あなたが教会のメッセージの事、話すなんて今までなかったもの。

ママ ゆりが、昨日電話くれて、「お母さんの愛は、無償の愛なんだよ」って話してくれて、ふと思いだしたのよ。

母 それはもう「ハレルヤ！」だね。

ナレーション 内心、“出るな？”と思っていた、母の「ハレルヤ」だった。それまでは、母が何事もまず神様を褒めたたえてからというのが、正直重かったが、この時は自分も思わずそう言いかけたのが、おかしく、また我ながら不思議だった。私にも、イエス様の愛というのがどんなものか、頭でというより、体でちょっぴり分かったからかもしれない。

母 うれしいわ。あなたも、“神様は私にも目を留めて下さっている”という事に、気づいてくれたんだもの。

ママ そう…、なのかなあ。まだよく分かんない。お母さんからは、「救われる」とか、「神をあがめる」とか、イマイチ分かりにくいクリスチャン言葉、いっぱい聞いたけど、この「無償の愛」って話、なんか、ジーンと心に響いてきたのよ。こんなの初めて。

母 ハレルヤ！

ナレーション 私は、しばらく実家で過ごしてから、赤ちゃんのこうたを連れて、2か月ぶりで自宅に帰った。その間に母が、色々教え、守ってくれたことに、ほんとうに感謝した。また、慣れない中でも、だんだん私にも母親の自覚がついてきて、頑張れるようになった。我ながら、母になると、こうも変わるものかと驚いた。

音楽 (ブリッジ)

ナレーション 子どもの成長は早いもので、あっと言う間に1年が過ぎ、こうたは私の両親の家で1歳のお

誕生日を迎えることになった。

○出産から1年後

パパ こうちゃん。1歳のお誕生日おめでとう！

ママ こうちゃん。おめでとう！

母 おめでとう、こうた！

父 こうた、おめでとう！ おじいちゃんだよ。初めまして。

母 およしなさいよ、あなた。いい年して。

父 そう言うなって。見てろ、そのうちみんな赤ちゃん言葉になるからな。

パパ お父さん、それ、言えてまちゅ。

一同 (爆笑)

パパ 皆さんありがとうございました。色々ありましたが、こうたはこうして、無事に1歳のお誕生日を迎えることができました。

ママ 私も、いよいよ仕事に復帰します。この子も近くの保育園に入ることも決まりました。頑張ります！

母 何かあったら、いつでも言いなさいよ。頑張るのもいいけど倒れちゃったら何もならないよ。かえってこうちゃんが、かわいそうになるからね！

ママ ありがとう。お母さんにはいつも感謝している。

ナレーション いよいよ出勤の日、保育園にこうたを預けに行った私は、親の心配をよそに、すんなり保育士さんに抱かれているこうたを見て、ほっとしながら会社に向かった。ところが、初日からいきなり…。

効果音 (電話の呼び出し音)

ママ もしもし。お母さん。

母 (フィルター音)あき、どうしたの？

ママ あの～～。出勤初日に、早速ですが～～。

母 (フィルター音)こうたがどうかした？

ママ 保育園から、「お熱が出ているので、お迎えに来てください」って電話があつて。

母 (フィルター音)あらあ。

ママ お母さん、お迎えお願いできるかなあ。

母 (フィルター音)分かったわ。迎えに行つて、こっちに連れて来ておくれ。おむつや哺乳瓶は買って帰るから、大丈夫よ。

ママ またまたお世話になります。よろしく。今度こそ、“もう、お世話にならないで頑張ろう”って

思っていたのに。

母 (フィルター音) 子どもは、そんな思うようにはならないわよ。

ママ そうだね。

母 (フィルター音) とにかく、お迎えしておくから、お仕事終わったらこちらに帰って来て。あなたも出勤初日、疲れているでしょう。おいしいごはん作っておくから。

ママ えー。感謝感激～。ありがとう。

ナレーション その日、1年ぶりの仕事を終わると、私は飛ぶようにして母とこうたの待つ実家に帰った。

ママ ただいまー。ありがとう。お母さん

母 こうちゃん、具合が悪いから、ずっと抱っこで、もう、大変。くたびれちゃったわ。でもね、ちょっと元気になってきたら、“世界一のこうちゃんスマイル”になって、疲れも吹っ飛んじゃった。

ママ 本当にありがとう。安心して頼めるのはやっぱりお母さん！ 仕事も時間どおりにはいかないし、本当に助かりました。

母 はいはい、いつでもどうぞ。慣れてますので。

ママ それ言われると、弱いなあ。

母 きっと、死ぬまで言われるかもね～～

ママ もう、お母さんったらあ！（二人、笑い）

ナレーション 近頃、世の中には、母親がおなかを痛めた我が子を虐待したり、殺したりという信じられないような恐ろしい話があるけど、今の私の心の中には、あの“無償の愛”という言葉が、いつも響いてくる。この愛を、母も信じているのだ。そう思うと、母がイエス様と本気で向き合っている姿が、なんだか本当にスゴいことのように思えてきた。

ママ(モノローグ) そう言えば、私が遠くの大学に行っていた時に、母が「困ったら開いてごらん」って、送ってくれた聖書があったんだ。今まで一度も開いていなかったけど、思い切って読んでみようかな。そして、自分なりに、“無償の愛”を探してみよう。

ナレーション そう独り言を言うと、私は、すやすや眠るこうたの顔を見ながら、思わず初めて「ハレルヤ！」と言ってみたのだった。

完